



みやざわ じろう 昭和62年札幌医科大学医学部卒業。
同年札幌医科大学神経精神医学教室入局。総合病院伊達赤
十字病院、札幌医科大学神経精神医学教室を経て、平成4
年ときわ病院に勤務。平成12年ときわ病院副院長、平成13
年ときわ病院院長に就任。令和2年4亀田北病院院長とし
て、現在に至る。

◎資格・現在の役職 精神保健指定医、日本精神神経学会
専門医・指導医、北海道精神科病院協会理事、北海道医師
会代議員、社会保険診療報酬支払基金北海道支部審査委員
会委員、北海道障がい福祉課精神科病院実地審査委員、厚生
労働省認定・認知症サポート医、日本認知症グループホ
ーム協会北海道支部顧問。

◎主要研究領域 アルツハイマー病における画像解析、神
経心理、生体磁気計測装置による脳磁場測定の研究。現在は
アルツハイマー型認知症のハイスクリーニング検査 (Me-
CDT) の研究に携わっている。

れてきましたが、教育レベルに左
右される設問や検査時間の長さが
難点でした。MeICDTはMMS
Eの記憶・見当識の項目とCD
T (時間描画テスト) を組み合わ
せることによって、アルツハイマ
ー病の初期診断に特化した検査で、
感度と特異度をともに向上させる
こと、検査手順の再現性が高く普
遍的な評価を行えることを骨子と
して開発しました。

名前②日付③今、何階にいるか④
最近の気になったニュース⑤検査
の冒頭に示した時刻。これらの設
問から記憶力や文字を書く能力を
確かめる。それと時計の文字盤に
時刻 (10時10分) の針を描写させ
るが、認知症になると数字や針の
記入を正しく書くことは難しくな
る。検査の所用時間は約3分ほど
だ。「開発時には323人に試験
を実施し、MMS Eよりも除外診
断能に優れ、アルツハイマー病の
スクリーニングツールとしてより
鋭敏な検査と位置づけられること
が確認できました」。

思いやりと優しさをもって
癒しの医療を実践

同病院は長期的な療養が必要な
患者の社会復帰を目指して、工芸
やレクリエーションなど作業療法
にも力を入れていく。また、精神
科デイケアを開設してリハビリテ
ーションの実施、さらに精神科救
急医療システム当番病院として地
域の精神科救急医療の一翼も担っ
てきた。「近い時期には老朽化し
た建物のリニューアルも行う予定
ですが、今後も精神疾患の方々
に対して他の医療機関や高齢者施設

などと連携し、誠実な医療を実践
します。認知症で在宅や施設での
生活が困難となった際の最後の砦
としての役割を担いつつ、再び元
の生活の場所へと戻っていただけ
るように取り組んでいきます」。
宮澤院長は「人の心は人でもしか癒
せない」という信条を忘れること
なく、思いやりと優しさをもって
癒しの医療を実践したいと強調す
る。「やすらぎと安心感を得てい
ただけのように、懐の深い陽だま
りのような開かれた病院を目指す
ために努力を続けていきます」。